

第5回『禅の里』まちづくり実行委員会 議事概要

■開催日時・場所

日時：平成 24 年 3 月 30 日（金） 15：30～17:00

場所：永平寺吉祥閣会議室

■議事次第

- 1) 『禅の里』まちづくり講演会開催報告
- 2) 動向調査・情報発信に関する検討結果報告
- 3) 平成23年度収支報告
- 4) 平成24年度の取組み
- 5) 運営体制(案)
- 6) その他

■委員会での議論

1) 『禅の里』まちづくり講演会開催報告

瓦版 3 号及びアンケート調査結果について説明。

- 特に意見なし

2) 動向調査・情報発信に関する検討結果報告

- ホームページ構築については、管理運営の方法、体制が一つの課題となるが、どのような方法があるのか、資料として示して欲しい。
→（事務局）ホームページの管理運営方法としては、管理者を置かずとも情報が更新できる方法なども考えられるため、いくつかのパターンを提示する。
- 広報委員会を立ち上げて検討していくべきではないか。
→（事務局）平成 24 年度の実行委員会の体制の中に、広報・渉外担当を位置づけており、その方々を中心に、検討体制の立上げを考えたい。
- どのような情報を、誰に伝えたいのかを議論するのが根本であり、どのような方法で発信するかはその後の話ではないか。
→（事務局）指摘の通りであり、今日の説明資料で提示したホームページのトップページのイメージの中にも、どのような情報を掲載すればよいのか、その柱立てを示している。検討体制を立上げ、このあたりの議論を深めていくべきだと思う。

3) 平成23年度収支報告

4) 平成24年度の取組み

- 平成 23 年度と平成 24 年年度の会議運営等にかかる経費の説明があつたが、こうした会議運営に関するお金はどこから出ているのか。
→（事務局）すべて文化庁の予算にて運営している。
- 平成 24 年度の取組に関する説明があつたが、仮に文化庁の予算が付かなければ、提示されている頻度での会議運営は難しいということか。
→（事務局）資料で提示した事柄は、お金が付かずとも実施していくべき点であると考えている。ただし、指摘の通り、文化庁補助が付かなかつた場合には、取組のスピードや頻度が落ちる可能性はあると理解いただきたい。
→（永平寺町浅野氏）平成 23 年度事業についても、当初 2 千数百万円で提示の所、

最終交付額が 700 万円という実績がある。文化庁の全体予算自体も減少していることから、平成 24 年度に関しても、このまま通るとは考えにくく、大幅に減額される可能性があることは理解しておくべきである。その中で一番採択の可能性が高いのは、AR 技術を活用した情報発信のところであると思う。

- 禅の里運営体制構築事業に関連して、永平寺検定をやってみてはどうかと考える。また、観光客の永平寺への関心の一つに雲水の存在がある。雲水の方々が、来訪者と交わるような機会があるとよいと思うがいかがか。
→ (事務局) 永平寺検定については、歴史文化遺産検討部会で掘り下げられる歴史に関する新たな知見等が材料になり得る。競争心を高めながら人材育成が行える面白い方法であり、是非検討したい。
→ (永平寺) 雲水については、その存在自体が清潔でベールに包まれたものであり、観光資源ではない。雲水と同じような境遇で一度修行体験してみて、その存在を肌で感じてみるという方法をお勧めしたい。
- (門前観光協会) 花祭りとのタイアップイベントについては、事務局を担う観光物産協会の事務局長が、この 3 月一杯で退職することもあって、調整ができていない。今年度は、例年通りの開催としたい。
→ (事務局) 花祭りに限らず、その先を見据えてスタンプラリーやおもてなしサービスのなどの展開を考えてはどうか。
- J R 西日本が冬のキャンペーンとして、東尋坊と連携した誘客商品の販売を行っている。永平寺も、そういった取組に乗っかるのも一つの方法ではないか。J R としても、東尋坊に加えて、永平寺が商品として加わることは、歓迎だと思う。
→ (事務局) 広域連携検討部会又は、イベント等を検討するプロジェクトチームを立ち上げて、検討を進めてはどうかと考える。

5) 運営体制(案)

- 会則改正案の附則について、平成 23 年度の体制として試行された時点の日付を残しておくべき。
→ (事務局) 指摘の通りであり、見直したい。

6) その他

- (事務局) 今後の会議については、白樹庵で開催することも検討している。

第 5 回『禅の里』まちづくり実行委員会の様子

